

## はじめに

### *Word Book* デジタル版

#### ※子どもたちと使い込んできた *WORD BOOK*

ぼーぐなんの *WORD BOOK* は、1970 年代の 9 歳のこどもたちが“知っている！”と思っている単語を、絵に描いて集めてきたのが制作の端緒となったものです。英語に触れ始めたばかりの子どもたちが、一つ一つの単語の意味を教えられることもなく、発音練習をしなくても、英語で話しかけられると直ぐに答えようとする、いかにも英語を知っていたかのように自然に反応をする力は、日常使っている外来語を聞き取ろうとする力に起因していると考えられます。

食べ物、衣服、乗りもの、色、動物や植物、文房具、家具や食器、町の中にあるもの、スポーツとその道具などなど、当時の子どもたちが日常使っていた外来語が中心で、クラスの誰かが知っているものが「英語を聞き取る力」の土台になっていたのです。サッカーがようやく普及しかけていて、まだ野球全盛の時代、ワープロを使える大人も少なかった頃のことです。英語の仕組みを教えられなくても、そして日本語で説明されなくても、*Do you like ice cream?* と聞かれれば、どの子ども *Yes!* と元気よく答えてくれます。開いているドアを指さして、*Close the door, please.* と頼めば、直ぐに誰かが閉めてくれます。聞こえてくる英語に全く臆することなく反応する子どもたちと英語を使い合うことで、授業は進められていきました。「あ、アイスクリームね。え？ドア？開いてるな、閉めてっていうことだな」と、とっさに判断しているのです。

そんな子どもたちの描いてきた絵を数えてみると 1,200 を超え、それを分類するうちに、絵辞典の原案が出来上がっていきました。子どもたちと英語を使い合い、クイズをし、子どもたちと英語で遊んでいる間に、彼らの日常の生活が見えてくるような親しみのある絵本にしよう構想を練っている間、私も楽しみました。こうして、子どもの手で扱いやすいサイズと肌に馴染みやすい柔らかさの絵辞典が出来上がり、ウォーム・アップや授業の指導ポイントとなっている英語表現の活用に使ってきました。「ページ探しゲーム」は、30 年前も今日も、様々な学校で先生方と子どもたちに大好評で親しまれています。その間、大きな変更は、ソ連をロシアに、そして、東西ドイツを一つのドイツに、などの国際政治に関わるものがありましたが、子どもの生活に直接関係するものは、ダイアル式の電話をプッシュ・フォンに、タイプライターをファックス・マシーンに、週 6 日制だった時間割のイラストを変えて、教室にコンピュータを導入！したりしたことくらいです。

*WORD BOOK* に収められた単語は、子どもたちがどこかで耳にし、覚えていたものばかりで、どれを使ってもクラスの誰かが知っているので、話しかければ直ぐに応じてくれます。不確かだった単語も、友だちの反応を見て、類推していくと、自分のものになります。こうして語彙を増やし、英語を使うことへの自信をつけていくのです。

## ※ **WORD BOOK**を使いこなすための 2 つの CD: 単語編 & ゲーム編

子どもとおしゃべりを楽しむことは、日本語でも意外と難しいものです。子どもの発想を理解し、視線を合わせて題材を選び、語りかける声の調子や速さにも工夫を凝らさなければなりません。外国語である英語で話しかけるのは、なおさら難しいものです。そこで活用していただきたいのが、単語を一つ一つ丁寧に読み上げている「**単語編**」と、臨場感のある語りでゲームを進行させることのできる「**ゲーム編**」という 2 枚の CD です。

「**単語編**」は、単語の発音が不確かだったり、アクセントに自信がないときにチェックすることが出来ます。また、子どもたちに **WORD BOOK**のページを開かせておいて CD を聞かせ、聞き取れた単語におはじきをおいていくようなゲームをさせると、語彙を増やしながらかかるた取りのようなゲームが出来ます。最初から 1 語 1 語全部分からせようとするのではなく、1 つでも 2 つでも単語を聞きとってもらえればよいと思っています。

「**ゲーム編**」は、その名の通り、CD を聞きながら 40 種類のゲームを楽しむことが出来ます。聞き取れた単語だけを抜き出して発音練習をするなどの指導は必要ありません。英語の語りかけを聞き続ける中で、英文をそのまま聞かせていると、1 つでも知ってる言葉があれば、子どもたちは「あ、これだ。あ、分かった！」と呟き始めます。1 回では分からなくても、2 回、3 回と回を重ねていると分かることが増え、不確かなところを確認していきます。この経験を大切にして、英語を聞き続けるたくましい態度を養っていきたいと思います。この力こそ、今後続いていく英語習得の「素地」となるのです。

## ※ **WORD BOOK**デジタル版を使ってできること

デジタル版には、「**ゲーム編**」の語りがスピーカー・マークに埋め込んであります。クリックすると、教室にネイティブ・スピーカーがいるような、自然な語り口で話しかけてくれます。子どもたちと画面を確かめながら聞き続けることができ、いつの間にか英語だけの世界に身を浸すことが出来るでしょう。イラストに添えられている単語や、‘Happy Birthday.’などの文字、約 1500 箇所にもネイティブ・スピーカーの音声リンクしてあります。あちこち子どもたちと一緒にクリックして楽しんでください。

ボードによっては、書き込みが出来たり、マジックペンを使ってイラストを拡大したり、また、いろいろな形を色つけたものを画面に用意してイラストの一部分を隠したりして、子どもたちの注意をさらに惹きつけることも出来ます。こうして、ボードの使い方に慣れると、新しいゲームが創り出せるでしょう。

今まで、子どもたちと飽きることなく使い続けてきた **WORD BOOK** を、電子黒板を利用することによってさらに奥行き深いものにしていきたくて願っています。